

仙台市太白山自然観察の森 情報誌2025年3月号

# 森のおくりもの 3

NO.402 The Gift from Woods

ニッコウネコノメ（ユキノシタ科）



寒い冬から暖かい春へと移り変わる季節、春分の日を境に昼間の時間が長くなり、低温で眠っていた植物たちもいよいよ目覚め始めます。モノトーンだった森に色が戻り始める季節がやってきましたよ。森の変化を感じやすい春です！ぜひ、ガイドウォークに毎週参加してレンジャーおススメの森での一期一会に胸を躍らせてください。素晴らしい森に感謝！【館長：佐藤由美】

## 森のことは

自然の様子やできごとを四字熟語やことわざなどに当てはめ、森で感じた言葉をお届けします

### 『原点回帰（げんてんかいき）』

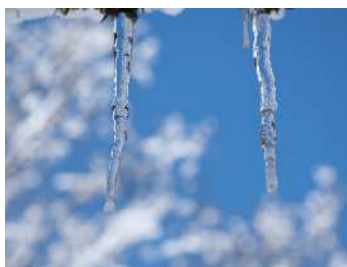
立春を過ぎると桜の開花が気になり出すということで、天気予報では早くもソメイヨシノの開花予想をやっていました。2月1日以降の日平均気温の合計が400度を超えると開花するという法則があり、おおよその計算ができるのです。3月は気温が高くなる見通しで、仙台では平年よりやや早い予想でした。

桜の開花に、ある程度の期間寒さに晒されることで休眠が解除されるしくみがありますが、冬に気温が高いと休眠からの目覚めが悪くなり、開花が遅れる原因になるので冬の寒さが必要です。最近は暖冬傾向でしたが、仙台の今季最低気温が－5度と十分寒かったので、この条件はクリアできたことでしょう。

桜など一般的な植物が、冬に活動を停止させ寒冷期をやり過ごし、春になると活動を始めるのを見ると、季節が巡ることや冬が一定期間で終わるとわかっていることに不思議さを感じます。「原点回帰」という言葉があります。長さなどを測るときの基準となる点の「原点」と、一回りして元のところに戻ることを意味する「回帰」を合わせた四字熟語です。「物事の出発点や基本に戻ること。そもそもの事の起こりに再び忠実になること」で、ことわざのような教訓はないのですが、原点に戻ったり基本を見直したりすることで大切なことを思い出すからなのか、初心に帰るという意味で使われているようです。植物にとって冬は、春に活動を始めるための出発点だと思いました。

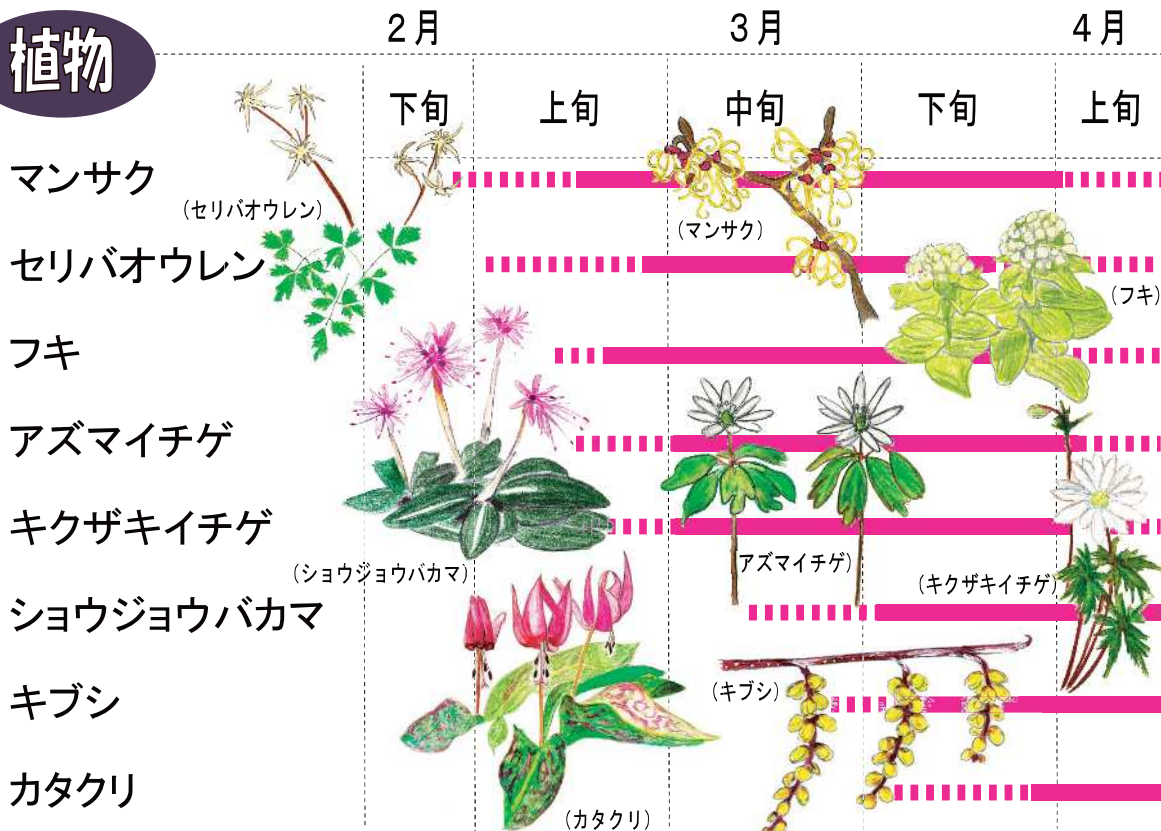
ニュースで最強最長寒波が襲来とか各地の大雪が積もって大変な様子を目にしましたが、幸い仙台では大雪にならずに済みました。温暖化だというのに寒さが厳しいと思いますが、これも温暖化の影響のようです。この寒波は、北極が温暖化しているので寒気が分散したためと天気予報でやっていました。また、春と秋は気温が高くなることで夏と同化して四季ではなく二季となり、極端な夏の暑さと冬の寒さの二極化となるのではと言っていました。

冬があれば二季でも何とかかなりそうと思ってしまいますが、そんな簡単な話ではなく、様々な影響があるでしょう。タイムマシーンがあれば温暖化になる前の時代に戻りやり直したいと考えてしまいます。【レンジャー：新田隆一】



# 3月の生物ごよみ

## 植物



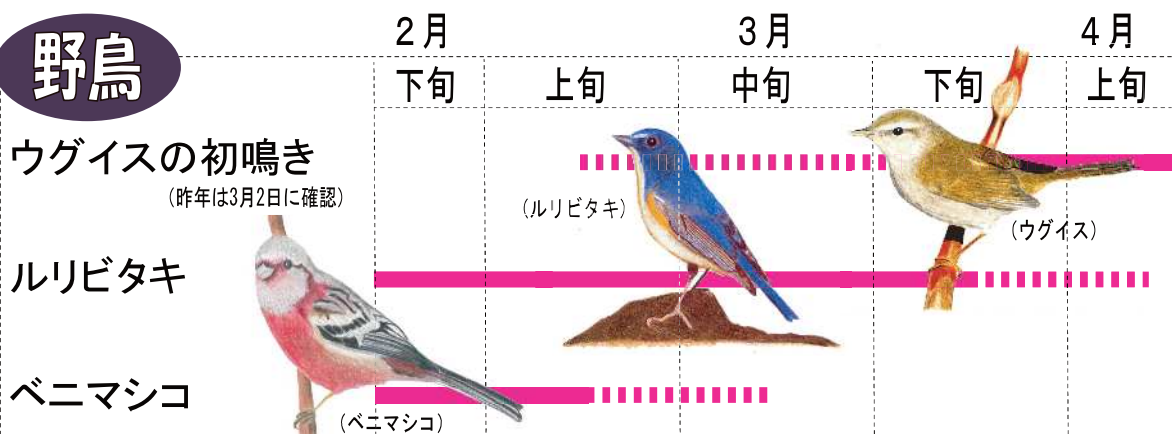
自然観察センターの裏庭にあるバードテーブルは設置すぐにはなかなか現れなかった小鳥たちもやっとたくさん集まるようになり、エサも午前中ですぐなくなってしまう状況になりました。昨年はアトリが全く来なかったのですが、今年はアトリの当たり年なのかセンター周辺に数百羽の群れが訪れています。バードテーブルはまだ見つけていないようで数匹しかやってきませんがこれからが楽しみです。冬鳥の情報としてはセンター周辺ではツグミを見かけません。他の地域はどうでしょうか？情報をお知らせください。



アトリ(アトリ科)

【レンジャー：齋 正宏】

## 野鳥



※冬鳥 越冬のために日本より北の国から渡ってきて、冬を日本で過ごし、冬が終わると再び繁殖のために北の国に渡っていく鳥。



# 森の「あれこれ」



「春を待ちかねて」



まだ寒さの厳しい観察の森で冬越しのいきものがいます（左上の写真、中央あたり）。右上が拡大した写真ですが、初めて見た方は“いったい何者？”と思うかもしれませんね。

正体はルリタテハという蝶の仲間です。閉じた翅の色は黒やこげ茶色、写真わかりやすい角度で写していますが日陰であったり黒っぽい樹皮だとその木肌と溶け込んで見事な保護色となり見つけるのに苦労します。

いつも感心するのは蝶が選ぶ冬越しの場所です。樹のくぼみや割れ目、今回は幹がカーブして雨や風の影響がより少ない場所を巧みに見つけます。冬は蝶たちにとっても試練の季節で厳しい寒さと乾燥の中でじっと春が来るのを待つしかありません。強風に飛ばされ地面に落ちたり鳥に食べられたり（鳥も冬を生き延びるのに必死です）する者も多くいるのではと想像します。無事に春をむかえて命をつなぐことができるのです。

裏の翅は地味なルリタテハですが翅を開くと黒地に鮮やかなルリ色のラインがあり美しさはたえようがありません。観察の森でも下の写真のように3月のあたたかな日ざしの中で日光浴をする姿が見られるはずです。

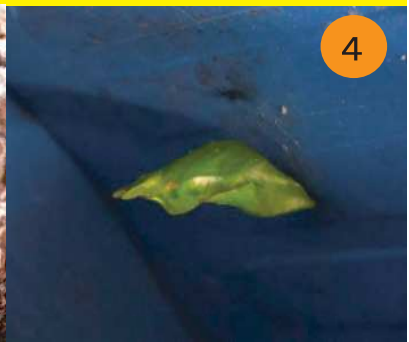
【レンジャー：木田秀幸】



# 森は生きている



① 黒ゴマのように見えるのは、クリオオアブラムシの卵 ② 木の枝に擬態してるのは、クワエダシャクという蛾の幼虫です。③ 幹の窪みにあるのはクヌギカメムシの卵で、緑のゼリー状のものは孵化した幼虫の栄養などになります。④ 掃除用の塵取りの中で蛹になったアゲハチョウ



まだまだ森では寒さを感じますが、日本では3月を弥生と呼んだりします、弥生とは草木などが「いよいよ・ますます（＝弥）生い茂る」という意味があるそうです、観察の森も厳しく長い冬が終わり、生き物たちも少しずつ動き出します、早く会えるのが楽しみです。

【レンジャー：菅井 潤】



# 3月のイベント & お知らせ

◆『野鳥のレストラン』開催中！ 3月30日(日)まで

## ◆『おはよう野鳥かんさつ』

- ・ 3月15日(土) 6:30~8:00 どなたでも 20名
- 【内容】講師の解説で野鳥を観察しながら早春の森を歩きます
- 【持ち物】飲み物、帽子、防寒具、かっぱ、歩きやすい服装と靴
- 【申込み】3月6日(木)午前9時から電話で受付〔先着〕

## ◆『春をさがして～観察の森一周ウォーク』

- ・ 3月22日(土) 10:00~12:00 小学生以上 15名
- 【内容】早春に咲く花などを観察しながら森を歩きます
- 【持ち物】飲み物、帽子、防寒具、かっぱ、歩きやすい服装と靴
- 【申込み】3月7日(金)午前9時から電話で受付〔先着〕

## ◆『早春の植物かんさつ会』

- ・ 3月29日(土) 10:00~11:30 小学生以上 20名
- 【内容】講師の解説を聞きながら早春に咲く植物を中心に観察します
- 【持ち物】飲み物、帽子、防寒具、かっぱ、歩きやすい服装と靴
- 【申込み】3月8日(土)午前9時から電話で受付〔先着〕



SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS



毎週  
日曜は

## 『ガイドウォーク』の日！

開催日：2日、9日、16日、23日、30日

開催時間：10:00~11:30

※12月～3月の冬季は午前みの開催

申し込み不要。時間までにセンター前へお集まり下さい。

## 3月の休館日

3日、10日、17日

24日、31日

※月曜日が祝祭日の場合、  
翌日以降の平日が休館



### 宮城交通バスの場合

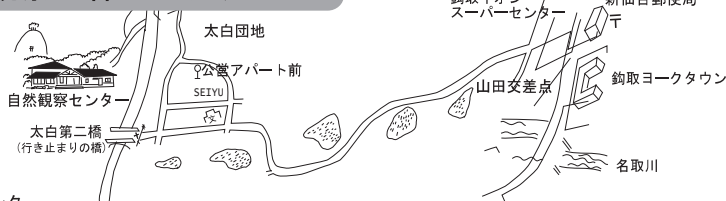
- ① 仙台駅 乗車時間 約40分
  - ② 長町駅東口 乗車時間 約30分
  - ③ 八木山動物公園駅 乗車時間 約10分
- 【行先】①②③ 「太白団地経由山田自由ヶ丘車庫行」乗車  
(※③のみ乗車可「太白団地、山田自由ヶ丘経由仙台南ニュータウン行」)  
いずれも 公営アパート前 下車→徒歩15分



### お車の場合

国道286号線の山田交差点から太白団地方面へ。  
道々の案内板に従って約10分で駐車場へ。徒歩5分でセンター

### 観察の森へのアクセス



自然観察の森の最新情報、  
「森のおくりもの」バックナンバーは  
Webで！

2025年3月号

発行：(公財)仙台市公園緑地協会

編集：仙台市太白山自然観察の森 自然観察センター  
〒982-0251 仙台市太白区茂庭字生出森36-63

Tel: 022-244-6115 FAX: 022-244-6133

「杜のひろば」URL: <http://www.sendai-park.or.jp/web/info/taihakusan/index.html>